

寄せられた意見

No. 37-1

受付日	H17. 4.11	年齢	40歳	居住市町村名	旭川市
件名	河川整備に対する意見				

サンルダム建設に対し、意見を述べさせていただきます。

私は天塩川水系サンル川にダムを建設することに反対いたします。

天塩川の洪水対策等の目的により、天塩川水系サンル川に、ダム建設の計画が持ち上がったのが、私が生まれた頃である、今から40年ほど前とお聞きしました。時は高度成長期。私の父、いいえ、私の祖父が現役の頃でしょうか。実は詳しいことは聞いていないのですが、祖父も、叔父も治水で喰っていた人間と父から聞いています。祖父は新潟からやって来て治水一筋。かなりの苦労をしてきたみたいです。子供心に、祖父はあの大きな石狩川と戦ってきたのだと、誇らしく思ったものです。私は空知管内の出身のため、私の生まれた頃は何度か水害に遭い、父も母も苦労したみたいです。私の記憶に残っているところでも、昭和56年位に、江別付近で大きな水害があったと思います。この治水の進んだ近代日本に置いても、こんな事が起こるのだと思ったものです。

さて、時がたち現在の日本。あの忌まわしい下流域での大きな水害は殆ど聞くことはなくなりましたように思います。これも堤防工事など、河川工事が進んだ為でしょうか。しかし、ここに来てのサンルダム建設。はたして、洪水対策としてどれだけの効力を発揮するかは疑問が残ります。サンル川にダムを造り、あの川からの流出量を調整したところで、あれだけ大きな天塩川の水量に変化を持たせる事がはたして可能なのでしょうか。そもそも、かなりの雨量があり、名寄川が濁流と化したときでも、サンルの流れは穏やかで、雪解けの時期を除いては、水位の変化も少ない川だと私は認識しています。その様な川に今、本当にダムは必要なのでしょうか。もし、本当に必要なのであれば、計画から40年も経過した今日ですら、着工していないのはなぜなのでしょうか。本当に現在の状況に見合った計画なのか、数十年前の見込みはすでに狂っていないか。今一度、費用を掛けてでも徹底的に検証する必要があると強く感じます。

ほかの目的にしても同じ事が言えると思います。40年前の人が、今日の状態を予測できていたでしょうか。鉄道は無くなり人口も減り、稲作の考え方もまるで当時とは懸け離れたものとなっていることでしょう。いったい誰がその水を必要としているのでしょうか。現在の名寄川からの取水で、間に合っているのではないのでしょうか。

観光においても、レジャーの多様化により、当時とは状況は異なります。ダム湖にボートを浮かべたところで、お客様がたくさんやって来るとはとうてい思えません。例えば同じダム湖においても、丸瀬布町の武利ダム周辺に対し、景観では断然有利な朝日町の岩尾内ダム。旭川が近い朝日町に対し、劣性の丸瀬布町の方がいつもにぎわっています。お客様は、決してダムを見に来ているわけではなく、その施設や環境に魅力を感じてやって来るものです。ダムを造り、それを核とする施設を創ったところで問題となるのはその後のやり方ひとつです。逆に言えばダムなんて無くとも、やる気があれば出来るし、やる気が伝われば自然と人は集まってくれるのでは無いでしょうか。ダムがないと出来ないなんて言っているのは、「高価なフィットネスマシーンを買わないと痩せられない。」と言っているのと同じに思えます。

寄せられた意見

No. 37-2

受付日	H17. 4.11	年齢	40歳	居住市町村名	旭川市
件名	河川整備に対する意見				

環境が重要視される今日。大きな顔をしていますが、人間はこの自然の中で生きているのではなく、生かされているものと考えています。所詮、人間など大自然の力の前では無力です。一度破壊してしまったら、この大河の流域でどんなことが待ち受けているかは判りません。流域のみならず、海にも続いているわけですから。破壊するのは一瞬ですが、それを取り戻すには、莫大な費用と時間がかかります。道東では、費用を掛けて直線化した河川を再び、自然の形に戻すのにお金を掛けています。オホーツクには機能を失ったダムも放置されています。これらを撤去するにも莫大な費用が発生するものと思います。

この計画により、造る過程ではなく、造ったことにより、近隣住民が均等に恩恵を受けることができるのか。暮らしは本当に良くなるのか。公共事業とは確かに利益の追求だけが目的ではない、ということはよく判っています。しかし、この投資により、ある程度のリターンが見込めないなら、直ちに撤退すべきです。この財源は、我々が心血注いで働き、限界までのコスト削減で生み出した、なけ無しの利益の一部であるということを十分認識していただきたい。